

第一回 府中市道路等基盤施設管理計画検討協議会議事録

■ 日時：平成24年5月8日(火) 14:00～16:00

■ 場所：府中市役所北庁舎3階第5会議室

■ 出席者：(敬称略)

- 1 協議会委員(5名)：金子雄一郎、谷垣岳人、根本祐二、土方康志、古澤弘江
- 2 事務局(7名)：中島副市長、青木都市整備部長、粟石都市整備部次長、高橋管理課長、高野管理課長補佐、浅野管理課主査、吉岡管理課事務職員
- 3 庁内検討委員(8名)

■ 進行

- 1 開会及び委員依頼
- 2 副市長挨拶
- 3 委員及び職員自己紹介
- 4 協議会の目的説明
- 5 会長及び副会長の選任について
- 6 議事
 - (1) 府中市インフラマネジメント白書(案)について
 - (2) 府中市インフラマネジメント計画について
- 7 その他

■ 資料

- 1 事前資料
 - (1) 府中市インフラマネジメント白書(案)
 - (2) 府中市インフラマネジメント白書(別冊)【官民連携版】
- 2 当日資料
 - (1) 資料1-1 府中市インフラマネジメント白書 概要版
 - (2) 資料1-2 府中市インフラマネジメント白書(別冊)【官民連携版】 概要版
 - (3) 参考資料1 平成22年度 府中市の財務諸表
 - (4) 参考資料2 インフラの充足率について(近隣市との比較)
 - (5) 参考資料3 道路等基盤施設の維持管理経費の推移

1 開会及び委員依頼

(高橋課長) それでは、定刻でございますので、ただいまから、府中市道路等基盤施設管理計画検討協議会を、開会いたします。私は、管理課長の高橋と申します。会長が決まるまで、進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず、本協議会委員に関する「依頼状」の伝達でございますが、本来ならば、市長から、委員の皆様一人ひとりに、お渡しするところでございますが、時間の関係もございますので、あらかじめ、依頼状を皆様のお手元に置かせていただいております。これをもって依頼状の伝達に代えさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

次に、ご挨拶ですが、本来市長からご挨拶をさせていただくところですが、本日は公務で欠席をさせていただきますので、中島副市長からごあいさつを申し上げます。副市長、よろしくお願いいたします。

2 副市長挨拶

(中島副市長) 皆様におかれましては、「府中市道路等基盤施設管理計画検討協議会委員」をお願いいたしましたところ、快くお引き受けいただき、また、本日、ご多忙の中をご参集たまわりまして、誠にありがとうございます。

さて、このたび、市内の道路や橋梁、公園等、公共施設の老朽化の進行に伴いまして、都市基盤の管理の方向性を示す、基盤施設管理計画を策定することとなりました。

依然として厳しい社会情勢が続いており、本市といたしましても、予算削減に向けた取り組みが喫緊の課題である中、本協議会では、インフラ管理にかかるコストの平準化や維持管理費の削減にむけ、委員の皆様のご専門的な視点からのご意見を反映した、実効性のある計画を策定することを目的としております。

委員の皆様には、安全で快適な「道路・橋梁・公園等」の都市基盤施設の機能確保のため、都市基盤のマネジメント構築に向けた、貴重なご意見、ご指導を賜りますよう、お願い申しあげましてご挨拶いたします。

どうぞよろしくお願いいたします。

3 委員及び職員自己紹介

(高橋課長) なお、大変恐縮でございますが、副市長はこのあと公務がございますので、ここで退席をさせていただきます。

それでは、本日の進め方ですが、第一回目の集まりでございますので、自己紹介をしていただき、次に会長及び副会長の選出という順で、進めさせていただきます。それでは、お手元の名簿の順に従い、金子委員から順番にお願いいたします。

【委員自己紹介】

(高橋課長) ありがとうございます。なお、会議開催の可否でございますが、定足数に達しておりますので、本日の会議は有効に成立しております。

それでは、私ども職員を紹介させていただきます。

【職員自己紹介】

4 協議会の目的説明

(高橋課長) 以上の職員が担当いたしますので、よろしくお願いいたします。

本日は、委員の皆様による最初の協議会でございます。そのため、まずは本協議会の目的等についてご説明いたします。

府中市では、今後、都市基盤施設の大規模な老朽化の進行による、維持管理費の大きな財政負担が想定されます。しかし、市の税収は年々減少しており、現状の維持管理の方法の継続が困難です。そのため、都市基盤施設の安全性を確保していくことを目的とし、今後の都市基盤施設の維持管理計画の策定をします。本協議会は、全4回を予定しており、計画の策定にあたり、市長からの依頼により専門的な観点からのご提言を依頼するものです。

続きまして、お手元の次第に従い、会長及び副会長決めていただき、その後、ご協議いただきたいと存じます。協議会の会議録への署名ですが、初めに、「金子委員」にお願いしたいと思います。

5 会長及び副会長の選任について

(高橋課長) それでは、次第の1、「会長及び副会長の選任について」でございます。会長が決まるまで、引き続き私の方で進行をさせていただきます。ファイルをご覧下さい。次第他の4枚目に、府中市道路等基盤施設管理計画検討協議会設置要綱がございます。会長及び副会長につきましては、当協議会設置要綱第5条第2項の規定により委員の互選により、選出することとなっておりますが、いかがいたしましょうか。

(谷垣委員) 会長には、学識経験者でこの分野に詳しい根本委員が相応しいと思います。また、副会長は、金子委員がよろしいのではないのでしょうか。

(高橋課長) ただいま、谷垣委員から、「会長に根本委員、副会長には金子委員にお願いしたらどうか。」という推薦のご意見でございましたが、それにご異議ございませんでしょうか。

(委員一同) 異議なし。

(高橋課長) ご異議がないようですので、根本委員には会長を、金子委員には副会長をお願いいたします。それでは、根本委員、会長席へお移りください。お手数ですが、土方委員、古澤委員は席を移動していただいてよろしいでしょうか。

【 席 を 移 動 】

(高橋課長) ありがとうございます。会長及び副会長が決定いたしました。市長から、会長に、依頼書の伝達がありますので、事務局から依頼書の写しを配布し、私から内容の読み上げをさせていただきます。

【 依 頼 書 朗 読 】

以上で、依頼書の伝達を終わります。

6 議事

(1) 府中市インフラマネジメント白書(案)について

(根本会長) それでは、ここからは私が議事進行を務めさせていただきます。それでは、次第2、「府中市インフラマネジメント白書(案)」について協議します。まず、事務局から説明をお願いします。

(浅野主査) 初めに、本日の配布資料を順番に確認させていただきます。まず、次第他というインデックスが付いているものが、1つめが、本日の次第でございます。2つめが、本協議会の要綱。3つめが、本協議会の委員名簿。4つめが、席次表。

5つめが、「府中市インフラマネジメント白書案」P174,175の差し替えのもの。これは、公園の経費を新設費、改築費、管理費に分類したことに伴うものです。

次に、6つめが、資料1-1、「府中市インフラマネジメント白書案」の概要。こちらも、公園の経費等の関係から、4の表を事前にお渡ししたものと変更をさせていただいております。

7つめが、資料1-2、「府中市インフラマネジメント白書(別冊)【官民連携版】」の概要。参考資料は、「平成22年度 府中市の財務諸表」、「維持管理経費の推移」、「インフラの充足率について近隣市と比較したもの」の3つです。これらの資料につきましては、今後の協議にあたり必要に応じてご参照下さい。

資料の不足及び事前にお渡ししている冊子をお忘れの方はいらっしゃいますでしょうか。

お手元にあります、「府中市インフラマネジメント白書(案)」及び資料1-1の概要資料をご覧下さい。本白書は、今後のインフラの維持管理計画を策定するにあたり、インフラの現状をまとめた資料です。本協議会でインフラの維持管理計画の方針をご協議いただくにあたり、不足している情報や構成等についてご意見を頂ければと思います。なお、本白書は今後広く市民に公開し、府中市のインフラの現状を示すものといいたします。よろしく、ご協議をお願いいたします。

(根本会長) 府中市の取組みは、さまざまな自治体が取組む中の第一グループにあたります。中でも、都市基盤施設と箱物を同時に進めることは、自治体で初めての取組みです。一般的に、他自治体では、箱物の管理を先行して基金を取り崩すなど貴重な財源を箱物に消費してしまい、財源に余裕が無くなる場所が多いというような状況です。府中市は同時に行うという点で、非常に画期

的な取組みであると思います。ぜひ、市のホームページ等で市民に対して広くPRしていただきたいです。なお、公共施設の方を他部門で行っていることは残念ですが、相互に矛盾しないように工夫して取組んで欲しいと思います。本日は、公共施設の担当は出席していますか。

(高橋課長) 出席しています。

(根本会長) 逆に、公共施設の会議に、都市基盤施設の担当者は出席していますか。

(高橋課長) 出席しています。

(根本会長) それでは、資料について具体的に把握のために質問いたします。まず、資料1-1、4番の表の40年間の予想経費の算出方法を教えてください。

(浅野主査) 車道舗装は、現在の状況を調べて数値化しています。そこから、現在の管理水準を維持した場合の試算をしています。植樹ますについても、劣化している場所を把握しましたので、40年間の老朽化を推測して算出しています。

橋梁については、長寿命化対象の橋梁は、目視点検による調査結果から試算をしています。また、その他の歩道橋等については、架け替えをしていく場合を想定して試算しています。公園は、遊具等の老朽化を勘案して試算しています。下水道は、この計画とは別に下水道マスタープランを作成しており、その中の推計値を反映しています。

(根本会長) 車道舗装は、現在の執行額が1.7億円です。現在と同じ維持管理水準で平準化する場合の年間経費が、なぜ4.2億円と増えるのですか。現状と同じであれば金額は変わらないはずだと思うのですが、新規の建設等が入っているのですか。

(高橋課長) 新規は入っていません。

(根本会長) 現状の金額では今の管理水準は維持できませんが、予算上1.7億円で抑えられている状態であると考えてよいですか。また、この4.2億円はどのように算出していますか。

(浅野主査) 白書の155ページのグラフをご覧ください。現状維持の水準であれば、MCIは6.9です。しかし、現行予算1.7億円で維持管理を行っていくと、MCIは40年後には5.0になると推測しています。

(根本会長) 管理水準は、現在より低くしないという政策的目標がありますか。

(浅野主査) 政策的なものは入っていません。

(根本会長) それでは、現状より低くしないと決めているということですか。また、橋梁の架け替えを何年で行うこととして考えたものですか。

(浅野主査) 管理方針を決定しているということではなく、現状をお示ししたものです。なお、橋梁は50年での架け替えとしています。

(根本会長) 公園には、新規建設は入っていますか。なお、現状と同等の維持管理を行うにも関わらず、現状で5.97億円かけていたものが、年間経費が4.3億円と

少なくなるのはなぜですか。

また、維持管理の 4.02 億円と 4.3 億円は比較できます。しかし、改築の 1.95 億円は追加的にかかるお金だと思います。そのため、少なくとも現状執行額から除くか、今後も同じようにかかることを考慮すべきであるのかを判断する必要があります。その点はいかがですか。

(委託会社) 公園の 40 年間の予想経費 172 億円は、遊具やトイレの老朽化、植物の植え替え等の経費を 40 年分足したのみの額です。

清掃・除草など作業の経費も本来含まれるべきですが、現状の予算の中では維持管理に含まれています。そのため、算出金額にはそれらの経費は含まれていません。なお、改築の経費は、トイレ増設等の設備改良・増築時の経費です。

(根本会長) 4.3 億円の中には改築は含まれていますか。

(委託会社) 改築は行わず、老朽化してから置き換えることを前提にしています。

(根本会長) 改築を今後に行わないという仮定で計算しているのでしょうか。

(委託会社) 現状を維持するという考えをしています。

(根本会長) 改築を今後しないのであれば、現状の予算額に改築費を含んでいる試算は甘めの想定をしている可能性があります。

(高橋課長) 現在の資料は、確かに改築などを除いた甘めの数字になっています。

(根本会長) 公園は、車道舗装、歩道植樹ます、橋梁と同じく普通会計に入っていると思います。しかし、なぜ現状の執行額が歩道植樹ますと橋梁は「車道舗装」に含まれるのに、公園だけ分けることができるのですか。

(浅野主査) 予算の費目が違うためです。

(根本会長) 下水道には両方に新規の建設費も入っていますか。

(浅野主査) 下水道の整備率は 100% のため、管路のリニューアルのみで新規の建設費は含まれていません。

(根本会長) 建設費は更新費にあたりますか。また、現在の執行額より平準化する場合の年間経費が増えるのはなぜですか。老朽化による更新と、長寿命化対策のどちらですか。

(浅野主査) 白書 182 ページのグラフをご覧ください。グラフの赤いものが老朽化対策費です。これは、今後増えていく想定であり、内容としては長寿命化対策です。

(根本会長) それでは、現状よりも単価が高いものに変えているということですか。長寿命化していくことは、平均すると優位になっていくはずですが、なぜ、年間経費が 5 億円増えるのですか。

(青木部長) 耐用年数の 50 年を迎え、管路を入れ替えるか、入れ替えずに管内面の補強を行ってきています。今までは老朽化対策が少なかったため、今後は増えるという結果になっています。

- (根本会長) 結果として、これまでの手法よりも長寿命化の手法の方が長期的に割高になるということなのではないでしょうか。もしそうであれば、長寿命化という方法ではやらないほうが良いと思います。今までは40億円で済んでいたものが、今後は5億円不足が生じるということは、このままでは値上げしていかないといけないということかと思いますが、この資料で市民は理解できるのでしょうか。
- (青木部長) 対策をしないと下水管はつぶれてしまいます。将来のために、入れ替えをしないで、管内部の補強を行って老朽化対策をしていく必要がでてきています。
- (根本会長) それでは、今まで老朽化対策費が少なかったものが、今後は増加していくために増額していくということですね。それでは、それを市民にわかる形にさせていただきたいと思います。
- (土方委員) 白書182ページのグラフでは、年々建設費が増えています。このさらに後の、増減はどうなのではないでしょうか。
- (青木部長) 178ページの建設費の推移グラフを見ると、建設費のピークは昭和55年前後ですが、それらの管は50年から60年経過すると老朽化します。昭和36年に入れた管は長寿命化対策をしますが、また50年経つと老朽化します。そのため、建設費の予測グラフは、山が繰り返しになっていくものとなります。
- (古澤委員) 維持管理するための積立金や準備金のようなものは無いのですか。
- (青木部長) 基金はあります。
- (古澤委員) 公園の40年間の予想経費172億円の根拠はどのようなものではないでしょうか。
- (浅野主査) 公園の設置年度、遊具の耐用年数等は把握しているので、寿命がきたら取替えることを考えて推計しています。そこから、一つ一つの公園の数字を積み上げ、172億円としています。
- (古澤委員) 市民感覚から言うと、いきなり数字が出るのは分かりにくいです。1年分の金額を出して、その40倍としたら172億円という話し方をした方がわかりやすいのではないのでしょうか。
- (根本会長) 数値の羅列では、それを解釈するのが難しいということがあります。そのため、公表するときは市の捉え方等を記載した方がよいと思います。
- (金子委員) 一般的に「平準化」とは、ある時期に急激にお金がかかる場合、それを予防保全して平準化することをいいます。この資料の表の場合は、「平均値」ではないのでしょうか。また、舗装は交通量によって劣化の速度が変わると思いますが、ここでは考慮されているのでしょうか。
- (浅野主査) 交通量の調査は行ってないので、路線ごとの劣化予測はしていません。白書151ページをご覧ください。ここで、昭和56年度以降の工事台帳で舗装の更新サイクルを示しています。ここから、全体像として捉えたものです。

(根本会長) 数字をもっと分かりやすくする必要があります。もし、下水道の現状の執行額に公債費が入っていれば、予想経費にも入る必要があります。

(高橋課長) 下水道も含めて整理をし、次回、新たな表をお示しします。

(根本会長) 表の読み方について、注釈をつけるなどをしていただけたらと思います。

(2) 府中市インフラマネジメント計画(案)について

(根本会長) 考え方には、計画の中身、作り方、実行の仕方、官民連携など様々なものがあります。今回検討するにあたり、協議会で協議してほしい議論についての目次の様なものはありませんか。

(浅野主査) 現状でのご用意はないため、次回までには用意したいと思います。

(根本会長) それでは、「計画の内容」「計画の法的な位置づけ、策定、プロセス」「実施の方法」、その3つを議論していくことでいかがでしょうか。

(根本会長) まず、内容よりもプロセスを考えます。現状では、インフラのマネジメントはどのように行われていますか。具体的には、予算の付けられる場合や意思決定はどうされているのかを教えてください。

(青木部長) 対処療法で対応している状況です。

(根本会長) それは、支障が発見された場合は対策をするということでしょうか。

まず、「計画を立てる上でなぜ計画が必要なのか」、その前提として「なぜ現状ではだめなのか」、その前提として「現状はこうなっている」というような資料の整理の仕方が必要です。問題を是正する計画を立てることはそんなに難しい話ではありません。

公園や下水道でも同じ状況でしょうか。

(浅野主査) 公園は同じ状況です。

(青木部長) 下水道は、調査の結果を受けて対応するか、年数が経ったものを順番に対応しています。また、予算の付け方に課題があると思っています。

(古澤委員) 『資料1-1』に戻りますが、車道舗装の劣化が進む場所が20箇所となっています。しかし、現状では165kmの中で20箇所と言われてもよくわかりません。比較するものがないと、市民の目から見るとよくわかりません。

(根本会長) この20箇所は、予想経費の計算に使っているのでしょうか。

(浅野主査) 表現は修正します。なお、20箇所の内訳につきましては、白書19ページに詳細を掲載しています。

(高橋課長) 次回までに、一目見て対比できるような表を用意します。また、説明が必要な部分には注釈を入れるようにします。

(土方委員) 都道や国道では予防工法を実施しているようですが、市道は指摘があったところだけ対応しているのでしょうか。

(古澤委員) 個々の道路ごとにメンテナンスを実施しているのでしょうか。

- (青木部長) 限られた予算の中で行っているの、現状で悪いところから対応をしています。
- (古澤委員) 人間は健康診断がありますが、道路については無いのでしょうか。
- (浅野主査) 路面測定車を用いた診断結果があります。それを数値化したものがMCIで、今回初めて実施しています。しかし、毎年やるものではありません。
- (青木部長) 小さいものはすぐに直します。しかし、大規模修繕になると、翌年、もし予算が取れなければその翌年に実施していることが現状です。
- (根本会長) 現状の市側の苦勞は、市民には見えていないと思います。そのため、まずは現状をわかりやすく開示することが大切であると思います。
- (古澤委員) なかなか市民には伝わってこないの、わかりやすく公表して欲しいと思います。しかし、市民においても広報を読んでいる人は少ない状況です。市民も理解を進めるなど、お互いが同時並行で考えていかなければいけないと思います。
- (根本会長) 公共施設の場合は統廃合ができますが、インフラはなかなか統廃合できません。そのため、今ある予算の中で維持管理していくことを考えなければいけません。対応を予防保全に変えるだけでも効果があると思います。
- (金子委員) 技術的には、コストを減らすような工夫をしていただきたいと思います。予防保全の考え方を導入し、どれくらいコストが削減できるのか検討することが必要です。また、財政当局を含め市全体として、予防保全の考え方を共有して行っていくということが必要です。
- (根本会長) 他市との取組み事例を紹介できるものはありますか。
- (浅野主査) 白書の中では、掲載していません。
- (根本会長) 例としては、道路の維持管理に指定管理者制度を取り入れている自治体があります。北海道の清里町と大空町では、3年の期限内で平常時も含めて管理を民間企業と契約しています。受注者はいずれも地元事業者です。また、青森県は橋梁マネジメントを実施し、コストは2割の削減となったということをお記憶しています。
- このように、取組みの中で生産性が2割上がっている例もあります。下水道に関しては、公共下水道をすべて更新せず、合併浄化槽など分散型に変える方法があります。府中市は公共下水道の方が良いとは思いますが、比較検討をすることは大切です。
- (土方委員) 予防保全で行う方が、企業としてもコストダウンができます。また、単年度ではなく長期契約の方が、やはり雇用の面でも機械レンタルの面でも安定してコストを減らすことができると思います。
- (金子委員) イギリスのポーツマス市で、PFI方式で市内全域の道路の維持管理を行っているという事例があります。また、以前学会のPFI関係の委員会で舗装会社

にヒアリングをしたところ、ある程度年数をまとめて契約されればコストダウンが可能と回答がありました。単年度の契約でのコストダウンは、なかなか難しいということもあります。

(土方委員) 1社で対応することは企業間の共存上難しいですが、連合体であれば可能です。1年目に計画や必要な資料を作成し、2年、3年へと続けるとコストダウンの可能性はあります。

(根本会長) 府中市は大きいので、その手法の中では、全市を3つ程度に分けて実施する方法などが好ましいと思います。

(古澤委員) 市民の感覚からいうと、そんなに府中市の予算が大変なのかが分かりません。

(青木部長) 現実的にはやりたいことはたくさんあります。しかし、市の一般会計のうち、義務的経費が50%近くあり、土木は毎年減る一方だという現状です。

(根本会長) 市の財政全体で土木費が減少しているが、一方で施設の老朽化は進んでいるという状況を、市民へ周知することが大切です。

白書の177ページで質問します。下水道事業費はバブル期に増えた後減少し、10年後に急に増加しているのはなぜでしょうか。一般的にバブル期後の経費対策に重複投資しているところもありますが、府中市ではどうでしょうか。もし重複しているところがあれば間引きをし、重複していなければその他の方法を考えましょう。

(青木部長) 府中市では、重複投資して行った事業はありません。また、重複した管については撤去しており、現状で無駄を省ける箇所はない状況です。

(根本会長) 現在協議しているような計画について、他の計画ではどのようなプロセスで策定を行っていますか。

(高橋課長) 例として、都市計画マスタープランでご説明します。まず案を作成し、パブリックコメントを実施後、議会での報告を経て策定しました。本計画についても、同様にパブリックコメントを実施後、議会での報告を経て策定することと考えています。

(根本会長) 市の内部の組織としてはどうでしょうか。

(高橋課長) 協議会の意見を検討する庁内検討会を作り、実務的な協議を進めています。

(根本会長) 公共施設は、それぞれの所掌している部署から切り離して再配分することがありますが。都市基盤施設について、そのような議論したことはありますか。都市基盤施設の維持管理は、都市整備部の中で完結しているのでしょうか。

(高橋課長) インフラはすべて都市整備部で所管しています。公共施設は他部門にまたがることがあるので、政策課で一元管理しています。しかし、今後は組織改正の中でそのような担当部署を作る動きはあります。

- (根本会長) トータルの資産マネジメント会議などを作り、自治体として自らの資産をどのように経営していくのかを議論する場を設けることは、一つのアイデアであると思います。そういった場がなければ、市の財政面での調整という観点で、都市整備部の方々が困ってしまう場面があるのではないのでしょうか。
- (青木部長) 政策会議という場所があります。
- (根本会長) 市全体のことは財政課長が決めるようなことではなく、長期的な視点による判断は市長が決めていくことが必要であると思います。
- (谷垣委員) 今のコストを維持するといっても、いくら平準化してもお金がかかる時期はありますし、今のコストのまま平準化できない場合もあると思うので、実効性のある計画を目指すべきであると思います。今の予算配分の中でバランスに配慮し、市の全体の財政の中におけるインフラ管理の位置づけも白書に入れる必要があると思います。
- (土方委員) 現状の予算を維持する方向で検討していますが、市民はそれでよいと考えるのでしょうか。具体的には、高齢化に伴うバリアフリー化の推進の必要性があります。現状予算の維持を前提とした検討の結果、管理レベルが下がるのであれば、市民としては受け入れがたい事項であると思います。
- (根本会長) 予算を上げるか現状維持か下げるかという判断は、選択肢を提示して政治的観点で選ぶしかないと思います。白書のまとめ部分には、あくまで予算を現状維持することについてコメントを入れて欲しいと思います。また、数字については、前提条件を明らかにしておくべきであると思います。扶助費等は義務のため、市全体の立場から考えれば公共投資を削減するしかないのだと思います。何もやらないでいると予算は減少していく一方だと思しますので、現状維持を前提にいろいろ検討をしていくことがよいと思います。
- (根本会長) 次回に備えて資料を作成する中で、また必要な数字等が増えると思います。本日は、計画を作るための方針について協議をしました。数値や資料については、次回で用意していただければと思います。

7 その他

- (浅野主査) 次回の協議会の日程ですが、7月4日 午前10時からを予定しています。なお、3回目は9月4日 午前10時で調整をさせていただければと思います。いかがでしょうか。
- (委員一同) 異議なし。
- (根本会長) それでは、本日はこれで終わらせていただきます。ありがとうございました。

以上、会議のてん末を記載してその相違ないことを証するため、ここに署名する。

会 長 根本 祐二

委 員 金子 雄一郎